

第4次静岡市総合計画の
見直しについてご意見を募集します

パブリックコメント実施中！

募集
期間

2025年

7月22日 火



8月21日 木

*広報紙には8月14日(木)までの募集と掲載していましたが、募集期間が変更になりました

1 総合計画についての基本認識

総合計画とは、総合的かつ計画的に市政を運営するための、地方自治体にとって最上位の計画であり、自治体が地域の未来像を描き、その実現に向けて策定するものです。

総合計画は、「政策集型」と「成果志向型」の2つのタイプに分けることができます。

「政策集型」は、行政が行う様々な取組を政策や施策に体系化して整理し、アウトプット(何をするか)を中心にまとめたものです。例えば、「道路を整備する」「施設を建設する」といった、具体的な取組の内容を列挙する形式の計画です。

こうした計画では、行政目線で、行政が何をするかに重点が置かれており、それにより市民の皆さんの生活がどのように良くなるかといったことは明示されていません。

現在の静岡市の総合計画は、どちらかといえば政策集型の計画といえます。

一方、「成果志向型」は、まず市民にとってどういう社会の姿が望ましいか(目指す社会)を描き、その実現に向けた政策の実行により、市民にどのような幸せや豊かさをもたらされるかといったこと(アウトカム)を示すものです。例えば、「道路の整備により、渋滞が緩和される、移動時間が短縮される」というような、市民の皆さん一人ひとりの生活にどのような利益や利便(成果)があるのかを強く意識した計画といえます。

私たちを取り巻く社会課題は、人口減少や少子高齢化、気候変動、地域経済の先行き不安など、ますます複雑化していくことが予想されます。このような社会課題の解決は、「成果志向型」の総合計画にすることで、市民や企業、大学、地域団体など多様な主体との「共創」により、社会課題を解決する必要があります。

共創によるまちづくりの主役は、行政だけではなく、市民・地域社会・民間企業など、社会全体の力です。これらの多様な主体の地域を良くしたいという思いと行動ががうまく働くよう、行政がしっかりとした仕組みや土台を構築し、結果が出るまで伴走をしていくことで、持続可能で活力ある地域社会の実現につながります。

第4次静岡市総合計画の見直しを通じて、市民の皆さんとともに目指す社会の姿を描き、共感を得ながら、一歩ずつその実現に向けて歩みを進めていきたいと考えています。

お問い合わせ

静岡市役所 総合政策局 企画課 政策企画・総務係



054-221-1020

2 4次総見直しの必要性

静岡市では、2023年3月に策定した第4次静岡市総合計画(以下、「4次総」という。)に基づき、各分野における取組を進めてきました。しかし4次総は、「目指すまちの姿」として「賑わいが創出されるまち」を掲げるなど、市が何をするかという「政策集型」の総合計画となっており、市民にどのような幸せや豊かさがもたらされるのかということが明示されていません。

そこで、4次総を、市民にとってわかりやすい、市民にどのような幸せや豊かさがもたらされるかといったことを強く意識した「成果志向型」の総合計画として見直していきます。

さらに今回、静岡市の課題と4次総の見直しの方向性をまとめましたので、ぜひ皆様のご意見をお聞かせください。

3 静岡市の課題

静岡市の人口減少とその原因

静岡市は、他都市と比較しても人口減少が著しく、極めて深刻な状況に直面しています。2024年9月に公表した市独自の推計では、このまま有効な対策を取らなければ、2030年の人口は約63.5万人まで減少すると見込んでいます。

静岡市が深刻な人口減少を迎えている背景のひとつには、若者の市外流出があります。これは、企業用地の供給に行政が積極的に関与してこなかったことにより、企業用地やオフィスが不足し、産業の新陳代謝が進まなかった結果、新規雇用とりわけ若者に魅力のある仕事や雇用が生まれてこなかったことが要因と考えられます。

人口減少による影響

定住人口が減少し続けると、皆さんの暮らしに様々な影響が生じます。

例えば、地域の商店や飲食店の利用者の減少は、小売や飲食などといった生活関連サービスの縮小や撤退をもたらすとともに、これらの業種の雇用機会の減少や個人所得の停滞につながります。

また、市の歳入予算の規模は、定住人口にほぼ比例するため、定住人口が減少すれば、市の歳入も減少します。静岡市の公共施設は、現在の人口をもとに整備されていることから、歳入が減少する中で、これまでの蓄積した公共施設の維持が重荷になり、市民サービスの縮小につながりかねません。

課題解決に向けた政策の必要性

皆さんの暮らしへの影響を少しでも減らすためには、多くの方が住みたいと思えるまちとして生まれ変わる必要があります。そのためには、厳しい人口減少を少しでも緩和できるよう、どうすれば人々が幸せを感じ、住み続けたいと感じられるまちになるのかを真剣に考え、人口減少を緩やかにするための政策を形成し、行動に移していくことが必要です。

4 4次総見直しの方向性

静岡市は、温暖な気候、美しい自然、そして歴史や文化に恵まれた、暮らしやすく魅力的なまちです。さらに、新幹線、高速道路、港といった交通の便も良いことから、経済的に成長していく力を持っています。適切な取り組みを行えば、魅力のある仕事や企業を呼び込む環境が整い、産業の活性化や個人所得の増加が可能なまちです。

そして、静岡市が多くの人が住みたいと思えるまち、とりわけ若い世代の人がこのまちに残って暮らしたい、このまちに移住して暮らしたいと思えるまちに生まれ変わるためには、若者が魅力のある仕事に就き、将来に希望を持てることや、静岡市内で子どもを持ちたいと希望する人にはその希望が叶えられることなど、**誰もが幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち**を実現していくことが重要です。

このようなまちを実現し、**静岡市の明るい未来を切り拓いていきたい**と考えています。